

東京都地方独立行政法人評価委員会
令和元年度第2回試験研究分科会

令和元年7月24日（水） 13：40～15：56

都庁第二本庁舎31会南塔 特別会議室21

東京都地方独立行政法人評価委員会 第2回試験研究分科会

令和元年7月24日

【横森技術調整担当課長】 それでは改めまして、本日はお忙しい中ご出席いただき、まことにありがとうございます。

私、商工部の横森でございます。本日も、どうぞよろしくお願いいいたします。

では初めに、委員会の開催に先立ちまして、商工部長、土村より、ご挨拶をさせていただきます。よろしくお願いたします。

【土村商工部長】 商工部長の土村でございます。本日は、ご案内が不行き届きで申しわけございませんでした。大変お待たせいたしました。

また、前回1回目の会議、私も参加する予定だったのですが、所用で急に参加できず、申しわけございませんでした。大変失礼いたしました。

本日はお忙しい中、また蒸し暑い中、試験研究分科会にご出席賜りまして、まことにありがとうございます。

第2回分科会開催に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

先生方におかれましては、先日の第1回の分科会で東京都立産業技術研究センターの業務の実績報告書を踏まえまして、大変短い時間での評価書も作成いただきまして、まことにありがとうございます。

また、その後、持ち回りの分科会を開かせていただきましたけれども、ご多忙の中、お時間を割いていただきまして、貴重なご意見をいただきましたことを、改めまして御礼申し上げます。

本日は、委員の皆様方からいただきました評価結果やご意見を踏まえまして、事務局で作成しました評価案に基づきまして、ご審議いただくこととなっております。

都の産技研が都民中小企業、皆様のニーズに応え、また一層お役に立てる組織となるためには、その取り組みに対する客観的な評価が不可欠だと思っております。

それぞれの専門分野でご活躍されている先生方から、改めて忌憚のないご意見をいただくことで、そうした役に立つ都民のための施設になるものと思っておりますので、本日もぜひ、ご審議よろしくお願いいいたします。

簡単ではございますけれども、私からの挨拶とさせていただきます。どうもよろしくお願いいいたします。

【横森技術調整担当課長】 ありがとうございます。

ここで大変申しわけないんですけれども、商工部長は業務の都合により途中退席させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは早速でございますが、第2回分科会を始めたいと思います。今、藤竿先生がまだご到着されておられません、4人いらっしゃいますので、開会とさせていただきますと思います。

あと、本日、波多野先生が所用のため、16時前に退席ということになりますので、よろしくどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、青山分科会長、進行のほど、よろしくお願いいたします。

【青山分科会長】 それでは、ただいまから東京都地方独立行政法人評価委員会、令和元年度第2回試験研究分科会を開催いたします。

まず、議事に入ります前に、本分科会は公開となっております、議事録につきましても、ホームページにて公開となりますことをご了承お願い申し上げます。

それでは、早速議事を進めてまいります。

お手元に配付してあります、式次第をごらんください。

本日の議事ですが、審議事項1件を予定しております。

初めに、事務局から配付資料の説明をお願いいたします。

【横森技術調整担当課長】 それでは、お手元の資料でございます。

配付資料といたしましては、4点ご用意させていただいております。1番上に、まず会議次第、それから席次表がございますけれども、その下でございますが、資料1といたしまして、個別の評価項目、24項目につきましての記述をした資料が1。

それからその次に、後ろに資料2といたしまして、全体評価、文章で書いたものがございますが、こちらのほうが資料2。

それから、その下に資料3といたしまして、こちらセンターの業務実績に係る評価委員会意見といったものが、1枚ペラでございますが、資料3。

さらにその下でございますが、資料4といたしまして、今後のスケジュールのほうが、資料としてお手元ご用意させていただいております。

さらにその下でございますが、手持ち資料として2点ございます。

1点が委員の評定（案）一覧ということで、各先生方からいただいた評価について、Sが何人等の記載をしたものをご用意させていただいております。

その下に、委員手持ち資料2といたしまして、先生方からいただいた評定の説明につい

て、こちらのほうを掲載させて、まとめさせていただいております。

さらに、お手元に一回目と同じ資料でございますけれども、業務実績の報告書と、そのダイジェスト版をご用意させていただいております。

以上でございますが、何か不足等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

資料については、以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

それでは審議事項、都産技平成30年度業務実績評価案について、審議を行います。

資料1ですが、平成30年度業務実績評価項目別評価（案）に従いまして、24項目にSからDのいずれかの評定を決めた上で、その説明文について、検討してまいりますので、よろしく願いいたします。

順番に参りますが、まず項目1、基盤研究について、評定（案）を事務局から読み上げてください。

【横森技術調整担当課長】 評価項目の項目別評価1でございます。

こちら、5名の先生方全員がSということで評価をいただいております。

ポイントとして3点ございます。読み上げさせていただきます。

都産技研戦略ロードマップに従い、「環境・エネルギー」、「生活技術・ヘルスケア」、「機能性材料」、「安全・安心」の4つの重点技術分野及び、「ものづくり要素技術」分野などにおいて計94テーマの基盤研究を実施している。

基盤研究に対するインセンティブ制度の導入による研究の活性化や所内部長の責任・権限の明確化などの新しい取り組みを積極的に実施している。

都産技研内の分野横断的な取り組みである「協創的研究開発」を新たに開始するなど、研究開発の質的向上に取り組んでいる。

矢印といたしまして、戦略的に研究事業を押し進めた結果、共同研究や成果発表の実績増加につながっている点は高く評価できる。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。この評定について、何かご意見ございましたら、お願いいたします。

藤竿委員、到着されました。

今、個別評価の評価1のところを始めております。項目評価1です。基盤研究のところ

何かご意見ございますか。

特にならなければ、これ全員がSをつけておりますし、自己評価もSということですが、ではSということよろしいでしょうか。

ありがとうございました。

それでは、この項目の評定につきましては、Sといたします。

それから、説明案です。案文について、何かご意見ございますでしょうか。よろしいですか。

ありがとうございました。

それでは、評定説明案は原案どおりといたします。

続きまして、項目別評価の2です。共同研究について、事務局からご説明ください。

【横森技術調整担当課長】 2、共同研究でございます。Aが3名、Bが2名の評価をいただいております。

ポイントでございます。

中小企業等との共同研究の推進や製品化・事業化への展開、共同研究から知的財産権の取得や外部資金獲得につなげる等、着実に成果を上げている。

I o T支援サイトの開設し、積極的に活動を開始していること、共同研究が一層進んでいることなど、I o T分野における支援が充実してきている。

東京2020大会を見据え、バドミントン用車椅子などの障害者スポーツ関連の研究も成果が出ている。

共同研究の推進が、さまざまな分野の製品化、事業化につながっていることは評価できる。

今後は、I o T支援においては、導入成果事例を広く発信することで、中小企業に見合った支援を促進することを期待する。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。これは評価が、Aが3名、Bが2名ということで分かれておりますが、何かコメントございますでしょうか。

それから、評価の案文ですね。説明文についても、合わせて何かご意見ありましたら、お願いいたします。

各委員から、あらかじめご意見を説明文についてもいただいて、これを事務局で取りま

とめて、ここに記載してございますが、それについて何かございましたら、合わせてお願いいたします。

特にございませんか。これは自己評価がAということで、それで委員の3名がAで、2名がBということですが、Bというのは特に悪い評価ではなくて、計画どおりというのがBなんですが、何かご意見ございませんか。よろしいですか。

藤竿委員、お願いいたします。

【藤竿委員】 まず共同研究のテーマ数が、前年度比19件増の55件というところで、あと、この製品化の事例で、例えばワッシャーとか、実際に支援をして売れる商品になっていると。基盤から、いろいろずっと発展しているような共同研究もあるということで、私はAにしたんですけれども。

あとは、パラリンピックとの絡みもあって、車椅子とか、こういったような、ある意味ニッチな製品も、ちゃんと支援しているというようなところを評価しました。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

ほかに何かございますか。例えば、特にこれはBのほうが妥当であるというようなご意見、もしございましたら。よろしいですか。

それでは、こちらのA3名、B2名ということですが、自己評価もAということで、皆様ご同意いただければ、これは評価Aということにさせていただきたいと思います。

ありがとうございました。

それでは、項目別評価の3の説明をお願いいたします。

【横森技術調整担当課長】 3、外部資金導入研究・調査でございます。

こちらは、5名の先生方全員がAということで評価をいただいております。

ポイントです。

外部資金獲得に向け、職員への研修・指導を充実させることや申請に向けたスケジュール管理を見直し、結果として前年度より多くの採択獲得へつながった。

研究成果の学会等での発表に複数の受賞を得ており、成果が認められている。

研究成果が特許等出願につながっており、成果展開が進んでいる。

外部資金獲得活動の強化により職員の意欲的な応募につながっていることは評価できる。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。何かご意見ございますか。よろしいですか。

全員評価Aということですので、評価はAでよろしいかと思いますが、説明文について、何かコメントございますか。よろしいですか。

それでは、項目別評価3については、評価がAということで、説明文も原案どおりということとさせていただきます。

続きまして、項目別評価の4に移ります。こちら事務局、説明お願いいたします。

【横森技術調整担当課長】 4、ロボット産業活性化事業でございます。

こちら評価のほうでございますが、Sがお一人、Aが4名の方となっております。ポイントでございます。

製品化・事業化について積極的な展開により、前年度より件数が増加している。

公募型共同研究開発の継続実施により、中小企業の新事業創出を支援している。

サービスロボット事業交流会の設置による企業のマッチングや、S I e r システムインテグレーター人材育成事業など、新たな取り組みにも挑戦している。

多様なロボットの開発及び製品化を進めるとともに、今後需要が見込まれるS I e r 人材の育成にも着手したことは評価できる。

今後は、I o TやA I の分野との連携を積極的に進めていくことが望まれる。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。Sがお一人、それからAが4名ということなんですが、その評価と、それから説明文について、何かコメントがあれば、お願いいたします。

こちらは、私はAをつけた中の一人だと思っておりますが、報告書を見ますと、確かに製品化・事業化件数というのが非常に4件から9件と伸びているので、これは割合から行くと百何十パーセントということですが大きいんですけども、まず件数から言うと、絶対的な件数では9件ということなので、絶対的な数を見てももう少し頑張っしてほしいなというのもありまして、Aということに私はいたしました。

ほかに何かご意見、ご質問とかございますか。よろしいですか。

それでは、特にご意見なければ、こちらはAが4名ということですので、評価はAということで、それから説明文については、事務局案がここにあります。原案どおりでよろしいでしょうか。何か追記すること、あるいは削除すること等ございませんか。よろしいですか。

それでは、原案どおりとさせていただきます。

続きまして、項目別評価の5へ移ります。生活関連産業の支援ということで、事務局からご説明をお願いします。

【横森技術調整担当課長】 項目5でございます。

こちら評価ですが、Aが2名、Bが3名ということになっております。

ポイントでございます。

墨田支所で新たに「生活動作計測スタジオ」を開設し、利用者の利便性向上を進めた。

感性工学や人間工学など新たな産業技術の基づく研究開発支援を着実に推進し、特徴ある製品開発につながっている。

生活動作計測スタジオによる新たな支援は、これからの高齢社会を見据えた中小企業ものづくり支援において有効取り組みとして評価できる。

今後は、より高度の製品開発支援と利用促進PRを一層進めることを期待する。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

こちらはAとBが2名、3名ということで分かれておりまして、少し議論、検討しなくてはいけない項目だと思います。

それから、説明文についても、ご確認、そしてご意見があればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

Bが3名ということですが、ほぼ計画どおりだろうというBの評定をされた方には限らなくてはいいいんですが、何かご意見あればいただきたいと思いますけど。

【北村委員】 私はBをつけたほうなんですけれども、一つには、いわゆる数値目標がないから、いわゆる抽象的な目標としての評価という形になったんですけれども、その中の数値を見ると、前年度よりは多いものもあるけども、必ずしも多いものばかりじゃない、少ないものもあるというのと、物すごく違う数字というのが、都産技研内でのデザインに関する書類内件数というのが、むちゃくちゃふえているんですけれども、これはどういう効果を及ぼしているのかというのが、余りよくわからないんで、そこを除けば、前年度の評価がBであったわけで、そのBと比較してAという評価をするには足りないかなということです。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

ほかに何かご意見。林先生。

【林委員】 施設も見せていただいて、すごい施設だなと思うし、やっていることもす

ばらしいと思うんですけども、もっとPRをして、中の人知っている人は知っているという感覚が、もう少しPR不足ではないかなという想いでBにしたということです。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

波多野委員、どうぞ。

【波多野委員】 件数の増加だけではなくて、生活感性、人間工学ですので、それをどうやってアピールしておくとか、ディールの新しいし表で評価いただきたいです。目標の設定を何か考えていただきたいなと思いました。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

ほかにご意見は。

私はAをつけたんですけども、今、Bのというご意見を伺っていて、特にどうしてもAという、私もそういうことでもないので、そういうご意見を聞けば、なるほど、最もだなというところもあるかと思います。

ほかによろしいですか。

そうしますと、いまB評価の委員から、つけたという委員から、非常に明確なポイントの指摘もいただきましたので、そのところをこの評価項目の説明文の中に、少し加えていただいて、もう少しPRをしてほしいとか、今のところ、それから北村委員のコメントとか加えていただいて、この項目5については、Bということではいかがでしょうか。よろしいですか。

では、事務局のほうで、少し加えて。

【横森技術調整担当課長】 そうですね。今、ご指摘の点を加えたいと思います。ありがとうございます。

【青山分科会長】 では、続きまして、項目別評価6、技術相談について、ご説明ください。

【横森技術調整担当課長】 項目6でございます。

Aが2名、Bが3名でございます。

ポイントでございます。

技術相談利用実績については高水準を維持している。

支援事例のデータベース化や技術相談検索システムによる支援情報の所内共有化を推し進めた。

今後は、データベース化した相談実績の分析を進め、支援のさらなる強化が期待される。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

こちらも評価が、Aが2、Bが3ということになっておりますが、いかがでしょうか。
ご意見ありましたらお願いいたします。

私もこれBですよ。

林委員、よろしいですか。

【林委員】 アンケート調査の資料がありましたよね。アンケートを見ると、電話がつかないとか、結構、どこに相談していいかわからないとかというアンケートの答えがあつて、これはもう、こういう時代なんだから、もう少しネットを使うとかというのを考えたらどうかなというコメントをしたような気がしました。

【横森技術調整担当課長】 そうですね。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

藤竿委員、何かございますか。

【藤竿委員】 相談実績、いろいろ含めてということだと思んですが、この3年、ずっと13万件超えているような格好になっているので、そういう意味では、全然高水準だなというのを感じています。

それと共有化も進めているということで、前年度と比べると、そんなインパクトのあるような、突出したような成果というものは、この中ではないのかなというようなのがあつて、私はBにしたんですけれども、ただ、よくないということじゃなくて、非常に一生懸命やっているなという感じはしています。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

ほかに。波多野委員、お願いします。

【波多野委員】 まさに、この矢印から先に書いてあることを記載しました。

アウトカムというアンケートの結果も、私は全て見て、それを反映させました。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

ほかにございますか。特にありませんか。

私は、これはAをつけているんですが、今、藤竿委員のお話を聞いていると、実績が高水準を維持しているということだったんですが、維持しているということはBかもしれないですね。一定の安定域に達しているというようなことで、このまま計画どおりお願いしますというような意味で、決して悪い意味ではなく、Bということでは同意ができると思

います。

ほかに何かございますか。よろしいですか。

【北村委員】 私もBとしたんですけども、高い相談実績ということですけども、これはもともと目標数が12万件ということで、これ多分、前中間目標期間のときには、もう既に達成している数字じゃないかと思うんですよね。だから第1年度目から53万で、この数字が何にも意味をもっていない目標数値だということで、その中で安定的ということ、Aをつけるほどのことではないのではないかということと、例えば支援事例のデータベース化だとか、技術相談検索システムというのは、これはあくまでも維持をしているという域を出ていないのではないかというような評価でBにしました。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

そうしますと、これは評価はBということでよろしいかと思いますが、いかがでしょうか。

それで、説明文については、何か追記することございますか。維持はしているということが入っていますので、説明文の中に。よろしいですか、原案どおりで。

ありがとうございます。

それでは、項目別評価7に移ります。依頼試験について、ご説明ください。

【横森技術調整担当課長】 7、依頼試験でございます。

こちら、5名の先生全員がAでございます。

ポイントでございます。

都産技研の特徴的な技術分野の支援である「ブランド試験」の利用実績を安定して増加させている。

依頼試験項目の見直しにより、より利用者のニーズに即した試験実施体制を整えた。

高い依頼試験実績を維持するとともに、力を入れているブランド試験の実績が伸びていることは評価できる。

今後は、都産技研の試験方法、国際的な標準化にもつなげる取り組みを行うことを期待する。

以上です。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

こちらは5名、皆さんAという評価なので、ここの評価についてはAでよろしいかと思いますが、いかがでしょうか。

今、説明文が、ここに書いてございますが、この分案について何かコメントございましたら、お願いいたします。いかがでしょうか。よろしいですか。こちらの原案どおりで。

ありがとうございました。

それでは、項目7については、評定がAと、説明文は原案どおりということで、お願いいたします。

それでは、項目別評価8番に移ります。機器利用サービスの提供です。ご説明をお願いします。

【横森技術調整担当課長】 8でございます。

こちらのほう、Sが2名、Aが3名いただいております。

ポイントでございます。

機器利用項目の充実や依頼試験からの移行促進、及び実績手法による進捗管理などを実施し、過去最高の利用実績を達成している。

城東、隅田、城南の各支所のリニューアル後の着実な運営により、機器利用実績委が伸びている。

支所のリニューアルなどの取り組みにより機器利用実績が過去最高となったことを評価する。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。こちらは評定が、Sが2名で、Aが3名というように分かれています。ご意見ございましたら、どうぞお願いいたします。特にございませんか。

私はこれ、Aだったと思うんですが、そこは確かに利用実績等、伸びていますけれども、これまでの過年度の利用実績を見ますと、その延長上として、こう伸びているというように私は判断しまして、特段の大きな利用実績の向上とか、特段のそういう特別な実績の向上というのは、延長上として実績が向上しているということでAかなと、こう思ったんですけれども。

ほかに何かご意見ございますか。特にございませんか。

それでは、これは評定としてはAということでよろしいでしょうか。

それで、説明文についてはいかがでしょうか。よろしいですか、特に。

それでは、説明文については、原案どおりとさせていただきます。

続きまして、項目別評価9に移ります。3Dものづくりセクターです。ご説明お願いし

ます。

【横森技術調整担当課長】 項目9でございます。

こちら、Sが4名、Aが1名となっております。

ポイントでございます。

依頼試験及び機器利用が過去最高の利用実績を達成している。

金属及び樹脂AM、積層造形、設備の製品化事例が着実に増加しており、実施許諾にも発展させている。

依頼試験棟の利用実績が過去最高となったこと及び質の高い製品化事例の創出は高く評価する。

今後は、最新の技術動向を捉え、中小企業のニーズに即した高度な設備の導入とそれを活用した中小企業ものづくり支援の充実が期待される

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。いかがでしょうか。

Sの評定が4名、Aが1名ということです。

【林委員】 私がAをつけまして、技術革新がすごく早い分野なので、もっと先を見たことをしていかないといけないのではないかなというふうに思って、現状のことよりも、その先をどう見据えるのかなというところがあってもよかったかなという気がしてAにしましたが、Sで大丈夫だと思います。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

ほかにコメントございますか。特にありませんか。

それでは、今、林委員からコメントいただきまして、まず評定についてはSとさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

今、林委員のコメント非常に重要だと思いますので、3Dものづくりというのは、やはり今、進歩が非常に早い分野なんで、そういう技術革新のテンポが速いということを見て、今後の3Dものづくりセクターの今後を見据えた、より一層の支援の充実ですね。これを充実について検討してほしいとか、何か事務局で、そのあたりの文章を追記していただくというのはいかがでしょうか。

【横森技術調整担当課長】 わかりました。この矢印のところに、そうですね。ほかの先生方から今後、さらに期待というところをいただいておりますので、こちらのほうに合わせて記述させていただきたいと思います。

【青山分科会長】 よろしいですか。

それでは、項目別評価の10に移ります。先端材料開発セクターです。説明お願いいたします。

【横森技術調整担当課長】 項目10でございます。

こちら、Sが3名、Aが2名でございます。

ポイントです。

ニーズの高い試験業務の支援体制を充実させることで、依頼試験及び機器利用の利用実績が前年度と比較して顕著に増加している。

研究開発を推進し、特許出願件数を昨年度の約2倍にしている。

有機半導体用新材料を開発し、メディアを活用した技術療法の発信により、中小企業への実施許諾及び製品化支援につなげた。

体制の見直しにより、支援件数を大幅に増やしたことは高く評価できる。

今後は、社会的に喫緊の課題である「プラスチック代替材料」開発等へのさらなる支援が望まれる。

以上でございます。

【青山分科会長】 いかがでしょうか。こちらは、評価がS3名、Aが2名ということで分かれています。何かご意見ございませんか。特にございませんか。

藤竿委員、お願いいたします。

【藤竿委員】 私はSにしたんですけども、一つは、この特許をかなり倍増させているということで、これはすぐにできたというか、タイミングもあったんでしょうけれども、実際に特許を取って、中小企業等に活用を促していくというのは、とても大事だと思うんで、そういう意味で一つ評価したのと、支援内容がプラスチックの代替材料。こういう今のニーズに合致しているような製品ですとか、半導体の材料も実際に中小企業に許諾しているというようなところを評価してSにしました。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

ほかにご意見は。

私は、これは10番目ですね。これはSをつけたんですけど、そこは利用実績が過年度を見ても、非常に利用実績の特別な向上が見られると、実績が高くなっているというところと、それからやはり、このプラスチック代替材料ですね。そういうところに着目をして、活動していると、これは非常に評価できるんじゃないかということでSをつけました。

何かほかにご意見ございますか。よろしいですか。

それでは、これも意見が分かれているところですが、Sが3名、Aが2名ということで、ここは評価はSとさせていただきますよろしいでしょうか。

それで、説明文についてはいかがでしょうか。よろしいですかね、このままでね。説明文は。先ほど藤竿委員のご意見も含まれていますよね、この中に。よろしいですね。

それでは、説明文については原案どおりとさせていただきます。

続きまして、項目別評価11番目、複合素材開発セクターについて、ご説明をお願いします。

【横森技術調整担当課長】 項目11です。

Aが3名、Bが2名となっております。

ポイントです。

依頼試験及び機器利用の利用実績が前年度に比べて増加し、高水準の支援件数を達成している。

サンドイッチコア材やCFRP炭素繊維強化プラスチック製ナット・ボルトなど、繊維分野における共同研究を活発に行っている。

製品化において、サンドイッチコア材等の、社会的な波及効果が期待できる製品開発がなされている点が評価できる。

今後は、繊維強化プラスチック技術に関する研究開発を推進するなど、多摩におけるものづくり分野の支援拠点としてより利用拡大がなされることを期待する。

以上です。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。こちらにも意見が、評価がAが3名、Bが2名と分かれています、何かご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

林委員、お願いします。

【林委員】 これは私、多摩地区ですので、多摩テクノプラザさんの活動ということなんです、これも、もっとPRするような手立があってもいいんじゃないかなという気がして、せっかくこれだけの成果を上げているのに、私のアンテナが低いせいかもしれません、全然、あんまりPRされていない気がしてBにしました。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

ほかにも何かご意見ございますか。

私は、これ11番目で、評価はAなんですが、この中で、やはり利用実績は安定して、少し微増しているということではありますが、製品化事例について、例えばこの中のサンドイッチコア材といったような、非常に、これ利用価値のある、社会的にいろいろ波及して、使われるのではないかとというような材料の開発も見られるということで、評価はAとさせていただきますわけではありますが、ほかに何かご意見ございませんか。よろしいですか。

それでは、こちらについては評価Aが3名、Bが2名ということで、評価はAとさせていただきます。説明文の中に、やはり、林委員からご意見ありましたが、もう少しPRをしてほしいといったことを追記していただくということでいかがでしょうか。

【横森技術調整担当課長】 わかりました。こちら多摩の、まさに売りのセクターでございますので、もう少しPRということで、加筆したいと思います。ありがとうございます。

【青山分科会長】 よろしいでしょうか。

続きまして、項目別評価12番目、オーダーメイド開発支援についてです。ご説明お願いいたします。

【横森技術調整担当課長】 項目12です。

Aが2名、Bが3名でございます。

ポイントです。

利用実績及び製品化・事業化実績は高水準を維持しており、さまざまな技術分野において、産技研の技術シーズを活かしながら支援を着実に実施している。

江戸ガラスを用いた醤油さしなどの高付加価値製品づくりを一貫支援した。

今後は、さまざまな相談媒体を活かして、一層オーダーメイド開発の相談しやすい環境が醸成されることを期待する。

以上です。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。こちらについても、評価がAが2名、Bが3名というように分かれております。説明文を含めて、何かご意見ございましたら、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。何かございませんか。よろしいですか。特にありませんか。

私はAをつけているんですが、私のコメントのところは、もう一回自分の書いたことを見てみたんですが、ほぼ前年度並みの水準を達成しているということなので、考え方によってはBかなという。自分でそういうAをつけておいてBかなというのがおかしいんです。

けれども、皆さんのお考えで3名がBと評価されていることに対して、Bでもよいのかなというように思いました。

ほかに何かございますか。よろしいですか。

それでは、こちらについては評価はBと、それで説明文については、よろしいですか。このとおりで。

それでは、原案どおりということにさせていただきます。

続きまして、項目別評価の13番目です。製品開発支援ラボ等というところですが、ご説明をお願いします。

【横森技術調整担当課長】 項目13でございます。

Sが1名、Aが4名となっております。

ポイントです。

製品開発支援ラボは高い入居率を維持し、入居企業による依頼試験等の利用実績は、前年度から大幅に増加している。

入居企業の製品化・事業化による売上高が前年度比で約6倍を達成している。

製品化では、AIや畜産など、多様な分野で成果を出している。

製品開発支援ラボ入居企業の売上大幅増及び製品化による多様な分野への支援を評価する。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。Sが1名、Aが4名ということですが、何か特にご意見ございますか。

このS1名というのは私なんですけども、売り上げが18億円達成しているというところで、これは特筆に値するのかなと思ってSにしましたが、ほかの皆さんAという評価です。Sに固執は、私はいたしません。よろしいですか。

それでは、項目13については、評価はAと。説明文については、このとおりでよろしいでしょうか。よろしいですか。

それでは、原案どおりとさせていただきます。

続きまして、項目別評価14番目に移ります。実証試験セクターについて、ご説明お願いいたします。

【横森技術調整担当課長】 項目14です。

Aが4名、Bが1名でございます。

ポイントです。

専用窓口による技術支援のワンストップサービスを継続するとともに、技術支援サービス設備を充実させた。

国際品質規格の全面改正に対応して、品質マニュアルの全面改訂を実施するなど、質の高い試験・校正を実施した。

規格改正にしっかりと対応するなど、質の高いサービスを提供している点が評価できる。

引き続き、信頼性の高い試験を提供するとともに、さらなる利便性の向上を目指してほしい。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。Aが4名、Bが1名ということでございます。何かご意見ございましたら、お願いいたします。

藤竿委員、お願いします。

【藤竿委員】 私、これ唯一のBなんですが、実際には、前年度比で利用実績が下がっているという部分と、ほかのAに比べると、ものづくりのインパクトというか、そういうものが感じなかったなというのもあって、そういう意味では、頑張っているけれども例年並みというか、そう思ってBにしました。

【青山分科会長】 ほかに何かご意見ございますか。特にありませんか。

今、藤竿委員から、そういうご説明いただきましたけれども、Aが4名いるということで、特に修正のご意見もありませんので、評価はAということでよろしいでしょうか。

今、藤竿委員からコメントをいただいて、前年度並みというのが、少し利用実績が少し低下しているというコメントがございましたが、このところは説明文の中だとすると、高水準の利用実績を保つという、そのところですね。これ、高水準というのは、中期の計画目標を超えた利用実績を維持しているということですね。

【横森技術調整担当課長】 そうですね。

【青山分科会長】 これ、コメントの仕方、この説明文のところに、前年度よりやや減少、実績は低下の傾向はあるが、高水準の利用実績を保っているというような言い方できないですか。

【横森技術調整担当課長】 そうですね。じゃあ、工夫をしてみます。

多分ここ、機器利用と依頼試験のところを見ていただきますと、依頼試験のほうが確かに減っているものでございます。

というのも、やっぱり依頼試験、手間暇がかかる、職員の手がかかるということで、今こちらの機器利用のほうに移っていただくというところで、若干それをPRし過ぎてしまったのか、依頼試験のほうが悪く落ちたというのが現状であってございます。

確かに2年前の28年と比べると、こちらの機器利用のほうはふえて、依頼試験のほうは横ということで、もしかしたら、29年ですね。この依頼試験で、どどっと大口の方で、ワーンと何回もお願いするような方がいてというようなこともあるかと思えますので、そこら辺はお調べして。

【藤竿委員】 前年度実績に比べると下がっているというふうにコメントして、実際にそこも見たわけなんですけれども、ただ、中期計画目標値自体は大幅に余っているということもあるので、この説明文の中で、余りそこにはこだわらなくてもいいのかなという気もしますので、だから、引き続き高水準であるのは間違いないので、これを維持して、今後も伸ばしてほしいといったような感じでいいと思います。すみません。

【青山分科会長】 わかりました。

では、これを引き続き維持してほしいというところを加えていただければ。

【横森技術調整担当課長】 わかりました。ありがとうございます。

【青山分科会長】 前年度に比べて下がっているというところは、やめておいて、いろいろ事情が中にあると思いますね。依頼試験と都の関係ですね。あると思います。依頼試験を減らすというのは、そういうことをして研究のほうもしっかりできるようにということで、そちらはそれなりに努力はされているわけなんです。

【横森技術調整担当課長】 そうですね。

【青山分科会長】 それで依頼試験の件数が減ったということで、そこを今度は、なぜ減ったんだというような指摘をするのは、確かに妥当ではないと思いました。

よろしいでしょうか。

【横森技術調整担当課長】 じゃあ、高水準というような言葉をキーワードで盛り込ませていただければと思います。ありがとうございます。

【青山分科会長】 そうしますと、ここは評定はAということで、説明文については、今少し意見があったところを緩和していただければと思います。

よろしいでしょうか。

次は、項目別評価15番です。技術経営支援について、ご説明をお願いします。

【横森技術調整担当課長】 項目15でございます。

こちら、委員の先生全員がAということで評価をいただいております。

ポイントです。

(公財)東京都中小企業振興公社、「公社」と各種事業で連携し、実地技術支援においても着実に実施している。

公社との連携支援事例集を新たに作成するなど、連携の効果について積極的に発信している。

中小企業支援を充実させるため、保有知的財産の積極的なPRを行い、実施許諾件数を前年度から倍増させた。

特許の出願件数及び実施許諾件数が大幅に増えていることは評価できる。

今後は、一層公社などとの連携に取り組み、AIやIoT分野における最新情報や動向を中小企業に提供されることと期待する。

以上です。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。この5番目の項目につきましては、皆様が全ての委員、これはAをつけておられますので、特にご意見なければ、評価はAでよいかと思えます。

説明文について、何か追記あるいは修正等ありましたら、お願いいたします。よろしいですか、これで。

それでは、説明文も原案どおりとさせていただきます。

では続きまして、16番目の項目について、技術審査ですね。ご説明をお願いします。

【横森技術調整担当課長】 項目16です。

Aが4名、Bが1名となっております。

ポイントです。

技術審査件数について、新たに6事業を東京都などから受託するなどにより、前年度から大幅に実績を伸ばしている。

産技研職員の技術審査能力向上のため、研修を拡充し、審査の質的向上に取り組んでいる。

厳正な審査が可能な現地審査の実績が前年度より大幅に増えていることは、きめ細かい対応として評価できる。

今後も公正中立な立場での審査とともに、技術革新に対応して、継続的なレベルアップを図っていくことを期待する。

以上です。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。何かご意見ございますか。こちらは評価Aが4名で、Bが1名ということではありますが、特段のご意見がなければ、こちら評価はAとさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

説明文について、何か追記あるいは修正等、コメントございますか。よろしいですか、こちらで。

それでは、原案どおりとさせていただきます。

続きまして、17番目です。海外展開技術支援について、ご説明をお願いします。

【横森技術調整担当課長】 項目17でございます。

Aが3名で、Bが2名となっております。

ポイントです。

広域首都圏輸出製品技術支援センターMTEPによる相談実績は高水準を維持しており、海外企画に関するQ&Aのウェブページのアクセス数は前年度から大幅に増加している。

中小企業では対応が困難な国際規格試験や国際規格への適合性など最新の技術情報の提供を迅速に実施した。

航空機産業などの海外展示会への出展支援を積極的に実施している。

医療機器産業や航空機産業分野で海外展示会への出展支援をしていることを評価できる。

今後は、中小企業の海外展開ニーズがますます高まっていることから、技術支援体制の強化やバンコク支所のより効果的な活用が期待される。

以上です。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。こちらは評価が分かれています、Aが3名で、Bが2名ということでございます。何かご意見ありましたら、お願いいたします。特にありませんか。

これ、Aが3で、Bが2ということで、私は実はBをつけたんですけども、そのBというのは、MTEPのところの活動ですとか、海外技術相談ですね。海外企画に関するQ&Aに書いてありますが、こういったところは非常に実績を伸ばしているということなんです、私のBに引っ張っていった大きなポイントというのは、その理由というのが、海外

拠点ですね。タイのバンコク、ここに拠点を出しているわけですが、ここの活動がいま一つ伸びてこないなという、そういうイメージがあるんですね。これは、タイの拠点を開く、拠点を開設するというときに、かなりの前向きな意気込みがあったんですが、そのときから見ると、その延長上として、例えば、そのこの拠点の活動が発展しているかという、これは一定の拠点の活動に収束しているように見えるので、それでBかなと思ったんですね。ですから、ほかの方々の別のところのパラメーターでAとなさっておられるのかと思いますので、それを尊重することに異論はございませんが、何かご意見ございますか。よろしいですか。

藤竿委員と北村委員は、タイが拠点が開いたときのところで委員ですよ。

【藤竿委員】 私は、これを見ると実はAをつけているんですけども、この海外規格対応というところで、このCEマーキング入門シリーズですとか、この安全規格の教材製作等、ユニークな活動をしているというのと、改正R o H S 指令も迅速にやっているというところで、実はAをつけておるんですけども、たしか、青山先生がおっしゃるとおり、タイに絞り込んで評価すると、活動がもう少しブレークスルーしてないなという感じはします。ですから、そっちの視点を強めていくのであれば、Bでもいいかなというところもありますので、そこをごめんなさい。半々ではあるんですけども、実績は伸ばしているんですけども、そういう新規性の高い海外展開支援、拠点を生かしたというところは、確かに、まだこれからだなという感じはしています。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

ほかにご意見は。

評定は、Aが3名で、Bが2名ということなので、Aでよろしいかと私は思います。ただ、今の海外拠点のタイ、バンコクの今後については、新たな取り組みを検討するなど、今後のことについて検討してほしいと。そのコメントをぜひここに入れといていただければと思います。

【横森技術調整担当課長】 わかりました。

【青山分科会長】 多少入っているんですが、バンコク支所における新たな取り組みによる支援の強化が期待される、と。

【横森技術調整担当課長】 新たな取り組みとか、取り組みの強化とかですね。わかりました。ほかの先生方もインタビューのときもバンコク支所の話は出ましたので、取り組み強化とか、新たな展開とか、そういったようなキーワードを。

【青山分科会長】 注目していますよというところを書いておいていただければ。

【横森技術調整担当課長】 はい、わかりました。ありがとうございます。

【青山分科会長】 では、ここは、評価はAということで、今のコメントを追記修正していただければと思います。

続きまして、項目別評価の18番目、産学公金連携による支援ですね。ご説明をお願いします。

【横森技術調整担当課長】 項目18でございます。

Aが1名、Bが4名でございます。ポイントです。東京イノベーションハブを活用した発信交流会の実施などにより、中小企業のマッチングの場を提供している。また、異業種交流会や技術研究会の活動支援などの取り組みを着実に実施している。

金融機関との連携により成果が出てきており、支援のネットワーク構築が進んでいる。今後も、産学公金のさまざまな機関との連携による成果をふやし、積極的にPRすることで、さらに支援の幅を広げていくことを期待する。

以上です。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。こちらは、評価はAが1名、Bが4名ということでございます。

【林委員】 Aをつけたのは私なんですけど、いろんな活動をされているなというのが、これがうまくPRをしているのではないかなと思ってAにしましたが、Aにこだわるわけではございません。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

ほかに何かご意見ございますか。

それでは、18番目については、評価は、Bが4名いるということでBということにさせていただきます。説明文については、原案どおりでよろしいでしょうか。

特に何かご意見ございますか。よろしいですか。

それでは、原案どおりにさせていただきます。

続きまして、19番目、行政及び他の支援機関との連携による支援ということで、ご説明お願いいたします。

【横森技術調整担当課長】 項目19です。こちらは、委員の先生全員がBということで評価をいただいております。

ポイントです。区市町村などの自治体や他支援機関との連携については新たに3機関と

の連携協定を締結し、講演会を開催するなど、着実に連携支援を進めている。公設試として初めて J S T 国立研究開発法人科学技術振興機構の新技术説明会に参加し、受託研究につなげている。今後も積極的に自治体などとの連携を推進していくことを期待する。

以上です。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。評定は、5名全員Bということですので、また自己評価もBでございます。Bということによろしいでしょうか。

説明文については、いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、原案どおりとさせていただきます。

続きまして、項目20番ですね。産業人材の育成ということで、お願いいたします。

【横森技術調整担当課長】 項目20でございます。

こちら先生方全員がBの評価をいただいております。

ポイントです。講習会やセミナーは、受講者アンケートで高い評価を得ており、アンケート結果が内容にフィードバックされている。

グローバル人材育成に向け、産業支援機関と連携した国際認証取得等に関するセミナーの実施や時宜を捉えたテーマ設定でもあるIoT関連の講習会を実施している。

今後も、グローバル人材や、IoT人材の育成など、多様な人材育成支援が重要になると予想されることから、さまざまな団体と連携した取り組みの充実が望まれる。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。評定は5名ともBということで、また自己評価もBということで、Bでよろしいかと思いますが、いかがでしょうか。

説明文については、何かございませんか。

読んでみて、説明文のところに、グローバル人材育成に向け、今後も、グローバル人材の育成IoT人材の育成などと書いてありますが、主として、中小企業を支援するための何か入っていたほうがいいんじゃないかな。グローバル人材とかIoT人材って物すごく幅が広いので、産業技術研究センターは中小企業支援が一番の目玉なので、そういうところを支援できるグローバル人材はどういう人材なのかと、これは少し議論になるんですけど。

【横森技術調整担当課長】 グローバル人材、あるいは海外からの商談等もあるかと思

います。

【青山分科会長】 もう少し。書き方を絞ったほうがいいかもしれませんね。

【横森技術調整担当課長】 わかりました。では、中小企業という言葉キーワードで。

【青山分科会長】 海外展開とかね。グローバル人材というのは、本当に幅広いので。

【横森技術調整担当課長】 わかりました。中小企業とか、海外、そういった言葉をキーワードにしたいと思います。入れたいと思います。ありがとうございます。

【青山分科会長】 何かほかにご意見ございませんか。よろしいですか。

ありがとうございます。それでは、そのようにお願いいたします。

21番目になりますが、情報発信、情報提供の推進というところです。ご説明お願いいたします。

【横森技術調整担当課長】 項目21でございます。

Aが3名、Bが2名となっております。

ポイントです。利用者への効果的な情報提供のため。YouTubeへの動画掲載など、ウェブサイト積極的に活用しており、広報の費用対効果の向上にも取り組んでいる。

「TIRINEWS」の誌面リニューアルや、「INNOVESTA!2018」の開催により、都産技研の認知度向上に取り組んでいるYouTubeの活用やINNOVESTA!2018の開催など広報活動を積極的に実施したことは評価できる。今後もさらにPR活動を進め、都産技研の利用促進に努めてほしい。

以上でございます。

【青山分科会長】 こちらは、評定の意見がAが3、Bが2と分かれておりますが、いかがでしょうか。何かご意見、コメントありましたらお願いいたします。

【藤竿委員】 私はBにしたんです。その理由が、一つはクロスミーティングなんですけども、都産技研の中でも大変重要なイベントだと思うんですが、ここの実績が各項目で前年度に比べて全部下がっているというところを気になりました。例えば、この首都大学東京などとの連携機関等による発表なんですけども、これが前年度27テーマで、今回が6テーマ、あと見学会の参加人数も大分減っているということで、ほかのINNOVESTAのほうはかなり伸びてはいるんですけども、大事なところで発表内容とか、集客とか、そういうところを含めて前年度を下回っているというところが、Aにするのは厳しいかなと判断しました。

それと、YouTubeとかを利用して伸びているというのは、非常に好ましいことで

はあるんですけども、特段SNSだと、こういう時代の中にあって、YouTubeを活用したんだという、胸を張ってアピールするほどのことなのかなという。今までにない取り組みという意味では評価できますけども、通常ベースの中の広報活動の中では、当然やってしかるべきの内容であるかなというところもあって、この項目はBにしました。

【林委員】 私もBにしたんですけども、YouTubeのことが特段言うほどのことではないかなと思っていて、新規を含む全5件というところ、ことし2件だけ登録したということですね。それは一桁違うんじゃないかなぐらいの感覚があって、Bにしました。もっと積極的に、新しいメディアを使って、それを専門にやっている方たちなので、もっと出してもらったらいいかなという感じがしました。

【波多野委員】 広報がこれから必要になってくると自分を感じていますので、このウェブの活用というのは進歩かなと感じてBにしました。

【青山分科会長】 北村委員、何かございますか。

【北村委員】 私も、費用対効果の云々というところが前年度と比べて結構増大しているということと、TIRINEWSの中身を変えることによって、新たな展開が行われているということの評価して、Aという評定をしました。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

私は、逆にYouTubeとかINNOVESTA!2018の活動を評価して、Aかなと思ったんです。確かにどこでもYouTubeをやってはいますけどね。ここは議論しなければいけませんね。

今のご意見、Bをおつけになった委員のご意見も、非常にもっともなことだと思うんです。そのところは、コメントの説明文に少なくとも入れたほうがいいですね。今の林委員、それから、藤竿委員のコメントですね。これは録音とっていると思いますので、そこを後で見ていただいて、コメントのところにはっきり書くということでございます。何か、間違った受けとめ方をしているということはないですか、数等、今のところで。

【横森技術調整担当課長】 そうですね。数等は、今、委員のご指摘のとおり、確かに前年度比で下がっているところも正直言ってございます。その部分が確かに見劣りすると言えば見劣りするところは確かでございます。

【青山分科会長】 私、Aをつけましたけども、今、Bのお話を伺って、Bでもいいのかなと思いましたので、ここは、評価Bにして。

【横森技術調整担当課長】 Bにした上で、Bの範囲であれば、YouTubeをした

とか、費用対効果ということも。

【青山分科会長】　そこは非常に評価できるというコメントを書いてもらって、費用対効果とか、Y o u T u b e等メディアを活用して、P Rをして、費用対効果を上げていると、これは評価できる。一方で、今お二人の委員が基本的なところですね。ここが、いま一つという書き方はしないと思いますけど、その努力を期待すると。厳しいコメントではありませんけどもね。

【横森技術調整担当課長】　そうですね。さらなるP Rに努めるようなことをメディアを活用してですとかですね。

【藤竿委員】　Y o u T u b eについては、悪いというわけではなくて、非常にいいなと思うんです。だけど、ここの文章のコメントの中で前面に押し出すと、Y o u T u b eをそんな胸張って言っているのという感じも受けかねないので、Y o u T u b eとかインターネットを使って費用対効果を上げていくというぐらいの、引き続きそういったような活動をしてほしいという感じにしたらいいかかなと思うのと、あと、この中で、例えば、I N N O V E S T A ! 2 0 1 8って、多分前々回るとき、かなり低迷というか伸びていなくて、ただ、それがこういう格好で盛り返してきたというのは非常に評価できると思うので、コメントの中で、このI N N O V E S T Aを前に出しつつ、Y o u T u b e等で費用対効果も引き続き上げていけば、期待するというような格好がいいかなと思うんですけど。

【横森技術調整担当課長】　確かに、Aからスタートしてこのコメントとなると言い過ぎのようなどころもあるかもしれませんが、Bからスタートしてということであれば、今、藤竿先生がおっしゃったように、余りY o u T u b e、Y o u T u b eという前面に、一般的な企業であれば当たり前の世界でもありますので、Y o u T u b eについてはもう少しさらっと触れて、逆にI N N O V E S T A復活したというか、費用対効果みたいなような話をキーワードと盛り込みたいと思います。

【青山分科会長】　少し、これ大き目の修正をかけますけどよろしいでしょうか。今のようなことで。

では、項目21については、評価は、Bということで、コメントを今、議論いただいたところに沿って直していただくということよろしいでしょうか。

ありがとうございます。

続きまして、項目別評価22です。組織体制及び運営、効率化、経費節減というところですか。ご説明をお願いします。

【横森技術調整担当課長】 項目22でございます。

こちら委員の先生全員が、Bという評価をいただいております。

ポイントでございます。部署の統合により経営企画機能及び統合調整機能を強化するなど、組織の効率的な執行体制の確保に取り組んでいる。

業務時間分析の継続実施により、研究開発時間割合が上昇し、研究体制の充実につながっている。今後も、業務時間分析をさらに精緻に実施し、分析内容を効率的に反映させていくとともに、迅速な意思決定による無駄のない効率的な体制構築がされることを期待する。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。これは皆さんBという評価ですので、評価はBでよろしいかと思いますが、いかがでしょうか。

説明文、コメントについては、いかがでしょうか。

この中の業務時間分析というのは私は非常に興味があって、この間の報告のときも少しコメントをした記憶がありますが、この業務時間分析を進めることによって、項目1から24まで、全てに当てはまるとは限らないと思いますが、いろんなところで件数を上げていますね。何件達成した、どうやったって。それに対して、業務時間がどのぐらい割り当てられているのかというところも見ながらやっていくと、これからの組織の体制だとか、人員の体制とかに非常に役に立つじゃないかと思って、これは、少し期待しているんですけどね。

【横森技術調整担当課長】 まさに、この精緻に実施し、内容分析ですね。そういったものにつなげていければ、より効率化につながるかと考えております。

【青山分科会長】 たとえそれが、例えばの話を言ってもあれですけど、業務時間分析を非常に細かくやって、それで、じゃあ、ここをもう少しって、成果が上がっていくという。同じ人員とか、体制で、効率が上がって、実際そのいろんなところの成果が上がる、新しいサービスもできるようになるということになると、この項目22あたりは、AとかSとかね。そういうことになるんじゃないかなと私は思うんですけどね。

ほかに何かご意見ございますか。よろしいですか。

それでは、ここは、項目別評価はBということで、コメントについては、原案どおりでよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、項目 2 3 についてご説明ください。

【横森技術調整担当課長】 項目 2 3 でございます。

こちらも、評価のほうは、先生方全員から B をいただいております。

ポイントでございます。

設備機器の構成保守を適切かつ効率的に実施している。

適正な予算の執行及び予算の管理が行われている。

今後も設備機器の保守・更新を計画的に進めることや、最新の I C T 技術などを活用した業務の効率化を進めていくことを期待する。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

いかがでしょうか。評定は皆さん B なので、B でよろしいでしょうか。

説明文については、いかがでしょうか。特に追記、修正等よろしいですか。

ありがとうございます。それでは、説明文については原案どおりということをお願いします。

それでは、非常に円滑に進みまして、項目最後ですね。2 4 になります。ご説明お願いいたします。

【横森技術調整担当課長】 項目 2 4 でございます。

こちら委員の先生、皆様から B の評価をいただいております。

ポイントでございます。

近年重要視されているコンプライアンスに関する取り組みとして、職員のコンプライアンス研修受講率は 1 0 0 % を達成した。安全点検等も適切に実施されるとともに、施設の省エネルギー対策にも積極的に取り組んでいる。

情報漏えい防止への取り組みや防災訓練、健康管理など年度計画を適切に実施している。

今後も、公的機関として他の機関の模範となれるよう、先端技術も活用しながら、働き方改革や情報セキュリティなどについて一層取り組みを強化していくことを期待する。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

こちら、項目別の評定は、皆さん B なので、B ということでよろしいでしょうか。

説明文については、いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、原案どおりとさせていただきます。

以上で、項目別評価 24 項目全部について評定及び説明（案）、これについて審議いただきました。全体を通して、何かございますか。前にさかのぼってでも結構です。よろしいでしょうか。

それでは、もう一回資料 1 をごらんいただきながら、最初から確認をさせていただきたいと思います。

項目別評価 1 については、評価 S ということでございます。

それから、項目の 2 については、評価が A。

それから項目 3 については、評価は A。

それから、4 について評価 A。

それから、項目 5 について評価 B。

項目 6 は、評価 B ですね。

それから、項目 7 は、A。

それから、項目 8 は A ということです。

それから、項目 9 が S。

項目 10 が S。

項目 11 が A。

項目 12 が B。

項目 13 が A。

項目 14 が A。

項目 15 が A。

それから項目 16 が A。

項目 17 が A ですね。

項目 18 が B と。

それから項目 19 は B。

項目 20 が B。

項目 21 が B。

項目 22 が B。

項目 23 が B。

項目 24 が B ということで、24 項目評定をつけました。

項目ごとの説明、コメントについては、議論の内容に沿って、事務局で修正（案）をつ

くっていただければと思います。

ほかに何か、全体を通してよろしいでしょうか。

それでは、以上をもって、項目別評価24項目の評定及び評価説明（案）の審議が終了いたしました。

ここで5分ぐらい休憩をとっていただきたいと思います。その後、引き続き再開したいと思います。よろしくお願いいたします。

午後3時11分 休憩

午後3時21分 再開

【青山分科会長】 それでは、再開させていただきたいと思います。

先ほどの項目別評価を踏まえまして、全体評価の審議に入ります。

最初に、事務局から資料2等について平成30年度業務実績評価全体評価（案）について、ご説明をお願いいたします。

【横森技術調整担当課長】 お手元に、資料2といたしまして、A4の紙のほうを配らせていただいております。こちら、1ページ目ですけれども、実は2ページ以降に本体がございます、総評等がございます、その概要の概要版でございます。ですので、2ページ目以降と本当重複した内容となっております。ご審議いただくのは、この2枚目以降の本体をご審議いただきまして、もしご修正等がありましたら、この1枚目をそれに応じて修正したいと思っております。

2ページ目のところをあけていただきますと、この1番上のところ、一番上のポツ、総評のすぐ下でございますが、中期計画の達成に向け業務全体がすぐれた進捗状況にあるとございますが、全体を示す言葉が5つございますが、その上から2番目の、この中期計画達成に向けというところを、委員の先生全員がこの標語をご選択されましたので、こちらのほうに記載をさせていただいたところでございます。

その下の行から、めくっていただきまして、3ページの真ん中までは、総論について書いてございますし、3ページの中ほどから、一番最後7ページまででございますが、こちらのほうは中期計画、あるいは中期目標の項目に沿った記述のほうをさせていただいてるところでございます。この後、私のほうで読み上げさせていただきますので、そのときお気づきの点等がございましたら、ご意見頂戴できれば幸いです。よろしくどうぞお願いいたします。

【青山分科会長】 ありがとうございます。ただいまご説明いただきましたけれども、

総評の標語については、5名の皆様、委員全員が業務全体がすぐれた進捗状況にあるというふうにお示しいただいていますので、標語についてはこれでよろしいでしょうか。

特にご異論なければ、そのようにしたいと思います。よろしいでしょうか。

(了承)

【青山分科会長】 ありがとうございます。

それでは、続きまして、この総評というところを後に検討するということにしまして、3ページ目の2、研究開発、技術支援及び法人の業務運営等についてというところを項目ごとに審議したいと思います。

まず、(1)について事務局からご説明をお願いします。

【横森技術調整担当課長】 それでは、(1)東京の産業発展と成長を支える研究開発の推進について読み上げさせていただきます。

都産技研は中小企業による新しいサービスの創出が期待できる重点技術分野と、中小企業の生産活動の基本となるものづくり要素技術分野について研究開発を行い、その成果を中小企業の技術力、競争力強化のための支援に活用している。また、中小企業や大学、研究機関等との共同研究を実施することで、製品化・事業化の促進につなげている。

基盤研究については、重点4分野及びものづくり要素技術分野を合わせて94テーマ実施した。さらに、基盤研究の成果をもとに、製品化・事業化7件、共同研究23件、外部資金導入研究15件へとつなげるとともに、学協会等での成果発表も論文、口頭等を合わせて391件と高い水準となっている。こうした研究開発の活性化のために、研究体制の改善に積極的に取り組むとともに、学協会等での発表の促進について組織的に取り組み、実績を上げていることは高く評価できる。

次のページでございます。

中小企業へのIoT化支援事業については、中小企業におけるIoTの導入は大企業に比べてまだおこなわれている状況の中で、「IoT支援サイト」を開設し、IoT関連の支援事業を拡充したことは高く評価できる。今後も、IoT導入の成功事例を積み上げ、それを広く情報発信することにより、産業全体の革新に貢献していくことが望まれる。

ロボット産業活性化事業については、「東京ロボット産業支援プラザ」を拠点として実施している、技術開発から試作・評価・安全認証・事業化、人材育成まで各種の支援策が適切にかみ合い、製品化事例も積み上がってきている。ロボットは成長分野だけに、競争も激しく、厳しい事業環境の中、意欲ある中小企業が事業展開できるように、今後もきめ

細かい一貫支援を講じることを期待する。

一方で、本事業は事業開始から4年が経過し、産技研が保有する技術と、それを活用した支援が中小企業の事業化にどれだけ結びついたのか、評価が求められる時期に来ている。事業効果を定量的に分析し、今後の事業展開の柔軟な改善に結びつけるとともに、世界のロボットの動向と社会的ニーズに即したロボット技術を開発することにより、中小企業の事業拡大につなげていくことを期待する。その際には、AIやIoT技術との連携によるネットワーク型ロボット等への対応もますます重要となる。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございました。

ただいま読み上げていただきましたけれども、まず、この(1)のところについていかがでしょうか。何か修正、あるいは追記、削除等ございませんでしょうか。

【北村委員】 2つ目のポツの基盤研究については、重点4分野という、これは2ページのこれで読めるということですか。2ページの4つ目のポツです。かぎ括弧がかかっている、「環境・エネルギー」から、この4つを指しているということでもいいんですよね。

【横森技術調整担当課長】 はい、そうでございます。第3期はこの4つを重点としております。

【北村委員】 それが、初めて読む人がすんなり結びつくかどうか、心配なんですけどね。4つの技術分野というのがここに書いてあるから、その次のページで重点4分野というので、重点という言葉が新たについているので、基盤研究で重点というのがついてるので、これとこれがそうなのよというのが、我々、議論したほうではわかっているんですけども。というのが気になりました。

【横森技術調整担当課長】 3ページのところに、前述のとか何とか、入れといたほうがよろしいですか。普通は頭から1ページ目から見るのかなと。今は確かに先に各論を見ていただいて、最後にこの総論の総論を見ていただくということで、後ろから読んでございますけれども、前から見ていった場合、3ページを見たときに、前述の重点4分野と書けば、たしか2ページに載っていたなということで、視点がいきますね。

【青山分科会長】 そうですね。今のは、2ページのところにある、真ん中あたりにあるところですよ。

【横森技術調整担当課長】 はい、これでございます。

【青山分科会長】 だけど、2ページのところには重点とは書いてないですね。

【横森技術調整担当課長】 わかりました。では、ここら辺は、言葉を合わせます。

【青山分科会長】 そうですね。初めて読まれた方が、誤解をしないように。

【横森技術調整担当課長】 2ページのことなんだなということがわかるように。わかりました。ありがとうございます。

【青山分科会長】 ほかに何かご意見ございますか。よろしいですか。

それでは、ここは、そのところの詳細を少し説明を加えるということです。

(2)をお願いします。

【横森技術調整担当課長】 (2) 中小企業の製品・技術開発、新事業展開を支える技術支援でございます。

都産技研は、製品開発の課題解決のための技術相談を始め、依頼試験、機器利用サービス等を通じて、中小企業の新製品・新技術開発や新事業分野への展開を支える技術支援を実施している。さらには、東京都や他自治体、経営支援機関等が実施する中小企業への助成や表彰等の際に行われる技術審査に参加し、すぐれた技術の発掘にも寄与している。

技術相談、依頼試験、機器利用ともに、平成29年度を上回る高い実績となっている。そうした中で、限られた人的資源を効果的に活用しつつ利用者サービスを高めるため、支援事例カードのデータベース化、都産技研ならではの特色あるブランド試験の拡充、利用者への操作法等の習得指導による依頼試験から機器利用への以降の促進、実績週報による機器利用の進捗管理など各種の対策を講じ、高水準の利用件数と中小企業の製品開発等の実績につながっていることが評価できる。

3Dものづくりセクターでは、金属や樹脂のAM設備を活用した製品開発支援に顕著な伸びが見られる。三次元CADデータ作成等のデジタルエンジニアリング支援も活用し、高付加価値製品の開発を支援しているほか、AM技術に関する特許出願や実施許諾などの成果につながっており高く評価できる。

今後は、超微細加工など最先端の加工技術が普及段階に移ると予想される。都産技研がいち早く最新のAM設備を導入し支援に取り組んできたように、こうした最新技術に対応した設備の導入と技術構築について計画的に取り組んでいくことが望まれる。

先端材料開発セクターでは、機能性材料、環境対応製品など先端材料製品の開発に資する高度先端機器を集中配置し、さらにニーズの多い試験業務に関する支援体制を拡充することで、依頼試験及び機器利用の利用実績を大きく伸ばしている。また、プラスチック代替材料の普及に関する社会的要請がますます高まる状況の中で、プラスチック代替材料の

開発支援に取り組み、実績を上げていることを高く評価するとともに、より一層の取り組みを期待する。

経済のグローバル化が一層進展する中、中小企業の海外展開を支える支援は、ますます重要となっており、広域首都圏輸出製品技術支援センター（MTEP）を中心とした国際規格への対応や、航空機産業への参入支援、海外の展示会への出展支援など、中小企業が単独では困難な課題に的確に対応しており、評価できる。引き続き、海外展開に向けた技術支援を強化していくことが望まれる。

以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

（２）のところについてですが、何かご意見ございますか。よろしいですか。

それでは、ここは原案とおりのことをお願いいたします。

続いて、（３）をお願いいたします。

【横森技術調整担当課長】 （３）多様な主体による連携の推進でございます。

都産技研は中小企業の技術的課題の解決を促し、新製品・新技術開発や新事業分野への展開を促進するため、自治体や、大学・研究機関、金融機関と連携した支援及び企業間の交流支援を実施している。

産学公金の連携支援や異業種交流会、技術研究会の活動支援等については着実に実施しており、製品化につながる実績も見られる。また、首都圏公設試験研究機関連携体（TKF）の活動の結果、受託研究の獲得や、経済産業省補助事業の採択を受けた機器整備について他の公設試と合同で実現するなど、連携の成果があらわれている。

以上でございます。

【青山分科会長】 （３）についていかがでしょうか。

多様な主体による連携の推進ということですか。よろしいですか。

【北村委員】 最後の公設試というのは、一般の方はわかりますか。

【横森技術調整担当課長】 余り一般の方にはあれですね。もう少し丁寧に書いたほうがよろしいですか。公設試験施設と入れておきますか。

【青山分科会長】 よろしいでしょうか。ほかにご意見ございますか。

それでは、今のところ、少し丁寧に記述するというようお願いいたします。

では、（４）をお願いします。

【横森技術調整担当課長】 （４）東京の産業を支える産業人材の育成でございます。

都産技研は、技術セミナーや講習会等を通じて技術的知見を普及することにより、中小企業の技術力や製品開発力の向上を担う産業人材の育成を支援している。

技術セミナーや講習会は、前年度と同等の開催実績を維持している。経済のグローバル化やSociety 5.0の実現に向けた技術革新に中小企業が対応していくためには、今後も高度な産業人材の育成が重要な課題となることから、都産技研のさらなる取り組みが期待される。

以上でございます。

【青山分科会長】 いかがでしょうか。この部分はよろしいですか。

特にご意見なければ原案どおりとさせていただきます。ありがとうございます。

では、(5)をお願いいたします。

【横森技術調整担当課長】 (5) 情報発信・情報提供の推進でございます。

都産技研は、多様な機会を通じて研究成果の普及や事業のPRを積極的に行い、利用拡大につなげている。また、研究開発の成果や保有する技術情報が多くの中小企業の製品開発や生産活動に生かされるよう、広報媒体を活用して情報を提供している。

交流イベントの開催や展示会への出展を行うほか、プレスリリースや、広報紙、ウェブサイト、動画などの多様な媒体を活用した情報発信・情報提供を展開している。今後は、さらにPR活動を積極的に推進し、一層の発表内容の充実と都産技研の認知度の向上に役立てていくことが望まれる。

以上でございます。

【青山分科会長】 いかがでしょうか。よろしいですか。

特に、それでは、ご意見がないようですので、こちらも原案どおりとさせていただきます。

(6) 番、お願いいたします。

【横森技術調整担当課長】 (6) 法人の組織体制及び業務運営等でございます。

限られた人的資源を効果的に配分するため、業務時間分析調査を行うとともに、事業別セグメント管理に活用し、研究開発と技術支援のバランスの確保に努めている。今後も業務時間分析をより精緻に行うとともに、研究開発など各業務に充てるべき最適な時間配分について検討し、将来的に新たな業務動向に応じた最適な人材配置等に反映されることを望む。

また、先端技術を取り扱う試験研究機関として、他団体の模範となるような最新のIC

T技術等を活用した業務運営の効率化にも積極的に取り組んでいくことを期待する。

中小企業のさらなる発展のために将来のニーズを先読みし、そのために必要な技術の蓄積と人材育成を先行的に進めることで、頼りになる都産技研として常に先進的な支援を提供し続けることを期待する。

以上でございます。

【青山分科会長】 いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、こちらも原案どおりとさせていただきます。

(1) から (6) まで、2番目の2のところについて、今ご検討いただきましたので、最初に戻って、総評についてご審議いただきたいと思います。

では、まず読み上げのほうお願いいたします。

【横森技術調整担当課長】 総評でございます。

第三期中期目標期間の3年目を迎えた、東京都立産業技術研究センター（以下「都産技研」という。）は、本部、多摩テクノプラザ及び各支所の設備・機器のリニューアルと機能拡充を計画的に進めつつ、第三期中期計画に沿って目標値を達成しつつ着実に実績を積み重ね、中小企業のものづくりにおける製品化等に大きく貢献しており高く評価できる。

また、東京都の施策とも連携して「ロボット産業活性化事業」、「中小企業へのIoT化支援事業」、「航空機産業への参入支援事業」「障害者スポーツ研究開発推進事業」に取り組み、新たな製品開発や、事業展開、生産性向上などに積極的に取り組む中小企業への支援を行い、製品化等の実績を上げつつあり評価できる。

研究開発については、今後の成長が期待される「環境・エネルギー」、「生活技術・ヘルスケア」、「機能性材料」、「安全・安心」の4つの技術分野への重点化を図るとともに、所管部長の責任と権限の強化による基盤研究の活性化や、組織を横断的に柔軟な研究を推進する「独創的研究開発」制度の創設、研究活動へのインセンティブ制度の導入など、研究体制の改善に積極的に取り組んでおり高く評価できる。また、学協会等での研究成果発表の促進についても組織的に力を入れて取り組んでおり、飛躍的な活性化が認められる。

技術相談、依頼試験、機器利用などの技術支援については、利用件数がさらに高い実績となる中、都産技研ならではの特色あるブランド試験の拡充や、利用者への操作法等の習得指導による依頼試験から機器利用への意向の促進などの対策を講じるとともに、3Dものづくりセクターを初めとして高付加価値製品の開発支援を行うことにより、高水準の利用件数と、製品開発等の実績につながっており高く評価できる。

なお、技術支援の提供に際しては、利用者からの意見を踏まえつつ、より一層の利用サービスの向上が図られるよう、利用手続きの電子化の推進などの改善に引き続き取り組むことが望まれる。

業務運営の面では、理事長のリーダーシップの下、都産技研の経営方針を対外的にも内部的にも明確に示している。また、第三期中期計画の達成に向けた定量的目標を事業項目ごとに掲げるとともに、その達成状況を的確に評価して改善策につなげていくという、適切なフィードバックが実行されているところが高く評価できる。

グローバルで複雑な社会課題の解決に向けて、持続可能な開発目標（SDGs）2030アジェンダへの幅広い取り組みが都産技研にも求められることから、こうした動きに対応する柔軟な組織運営を継続していくことが期待される。また、研究開発、技術支援を始め業務運営全体を通して、SDGsに関して現在どのような貢献を行っており、将来にわたりどのような取り組みを計画していくのかを整理し、広報活動に積極的に生かしていくことが望まれる。

以上でございます。

【青山分科会長】 はい、いかがでしょうか。総評についてご意見いただければと思います。

【横森技術調整担当課長】 先ほどの3ポツ目のところは、3ページとそろえた形で読みやすいように、4つの分野について記述したいと思います。

【青山分科会長】 SDGsは私がこの間申し上げたので、ここに入っているのかもしれないですけど、これはこれでよろしいですか。SDGsと産技研の関係。産技研としては、これからこういうものも意識していかなくちゃいけないと。大学は大分追いかけられているので、まだなんですけども、その感覚で申し上げたんですけど、よろしいですか。

【横森技術調整担当課長】 第1回目するとき、SDGsについてはコメントがございましたので、盛り込ませていただきました。

【青山分科会長】 何かご意見ございませんか。よろしいでしょうか。

これで、あとこの資料の今の2のところの1ページ目ですね。ここは、概要ということで、前のところからダブっているんですね。

【横森技術調整担当課長】 そうでございます。それで、資料2の1ページ目は、今皆様にご審議いただいたところのエッセンスというところで、今の説明と正直言ってダブっているところがございます。ですので、先ほどいただいた修正意見で反映すべきところが

あれば、盛り込むような形で、こちらは事務局で修正させていただければと思います。

【青山分科会長】 いかがでしょうか。よろしいですか。

では、特に修正、コメント、ご意見ないようでしたら、この総評については原案どおりということによろしいでしょうか。

(了承)

【青山分科会長】 ありがとうございます。

では、確認しますと、2の(1)のところの重点4分野というところをもう少し丁寧に説明を加えるということでありませぬ。

それから、(3)の6ページ目、他の公設試というところを少し詳しく説明していただく。

2件だったと思いますが、ほかに何かございますか。よろしいでしょうか。

特にご意見なければ、以上でよろしいでしょうか。

全体を通して何かご意見ございますか。よろしいですか。

それでは、以上で、平成30年度の業務実績評価が決まりました。

項目別、全体を通しまして、ご意見特にないようですので、きょうご審議いただきました平成30年度業務実績評価につきましては、本日いただいたご意見を反映させた案を再度事務局で作成していただいて、都産技研による事実確認を行った後で、次回第3回の分科会で確定するということにいたします。

よろしいでしょうか。

(了承)

【青山分科会長】 続きまして、資料3の業務実績に係る評価委員会の意見について、事務局から説明をお願いいたします。

【横森技術調整担当課長】 資料3、1枚ものをごらんください。

実は、こちらのほうも、今ご審議いただきました資料2から、今後に期待する、あるいはこういう方向でさらにといふようなところの部分だけを抜粋をしたものでございまして、内容については重複しております。というのも、昨年度、独立行政法人の法律が変わったことを受けまして、都の内部3法人なんですけれども、重点だけをまとめたものをつくりなさいということになりまして、本当に何か幾つも幾つも資料があって申しわけないんですけども、資料2から皆様方のそういったご意見、ご助言をいただいた部分を留意点としてまとめたところがございますので、全く同じものがございますので、読み上げは省略さ

せていただきたいと思います。

【青山分科会長】 特に期待する、望まれると、こちらの分科会からのそういった意見について出すというのがこの資料3なので、今ざっとお目通しいただきまして、これは特に書かなくてもいいんじゃないかとか、これは抜けているんじゃないかとか、今ごらんいただいて何かありましたら、ご指摘いただきたいんですが。基本的には、先ほどの資料2の内容がここに反映されているということでございます。

【藤竿委員】 この中で、プラスチック代替材料の普及について焦点当てて出ているんですけども、産技研で開発している製品ってすごくいっぱいあって、これを一押しですみたいな感じで出すのがいいのかどうかというのは、気にはなっているんです。とてもいい製品で普及を期待されるというのはすごくあれなんですけども、あえてこれだけに焦点を当てるとなると、どうなのかなと思うんですが。

【北村委員】 支援ですよ、都産技研が独自に開発したものじゃなくて。それがクローズアップされ過ぎじゃないかなと。

【藤竿委員】 もう少し期待できるような製品を入れるなり、何かしたほうがいいかなと。

【横森技術調整担当課長】 そうすると、プラスチック代替材料、今確かに一番旬というかメインで、この間も理事長がみずからセルロースでできたやつ、セルロースを炭素繊維で組んで。炭素繊維の技術を確認に多摩の素材センターで持っておりますので、それと今回融合させたというところで、紙製品のセルロースの技術を持っている会社さんと、それから多摩テクノプラザの炭素繊維の技術の融合ということで、あちらの商品を開発させていただいたところではありますが、ぎらぎらし過ぎですか。

【青山分科会長】 今のご意見がプラスチック代替材料と絞り込んでいるので、これはもちろん大事なことではありますけど、例えば、今後の社会的要請に応じて、プラスチック代替材料など、新材料の普及というか、そんなふうにすると、あるいは「など」をもう一つそこへ加えてもいいですが、いずれにしても、何々何々などということ表現されてはいかがでしょうか。

【横森技術調整担当課長】 わかりました。じゃあ、今の委員長のお話のとおり、社会的要請に対しての一つの例としてプラスチックみたいな、順番をひっくり返して。もし何かほかにもいいものがあれば、もう一つぐらいというようなところで。

【青山分科会長】 などというのを入れておけばいいと。

【横森技術調整担当課長】 ほかがなかった場合には、などという言葉で代替させていただきます。

【青山分科会長】 よろしいでしょうか。

(了承)

【青山分科会長】 ほかにご意見よろしいでしょうか。

以上で審議事項は全て終了をいたしました。

全体を通して、何かご意見、ご質問、ございますか。よろしいですか。

それでは、最後に、事務局から連絡事項についてお願いをいたします。

【横森技術調整担当課長】 資料4をごらんください。今後のスケジュールでございます。次回でございますが、第3回試験研究分科会、こちら、二庁の31階、特別会議室23です。この同じ31階になります。きょうはご案内が不十分で、一庁に行かれてしまった先生もいらして申しわけございません。次回も二庁でございますので、よろしくお願いいたします。

8月1日、お時間はきょうと同じく13時半からを予定しております。きょうご審議いただいたものの、修正したものを確認していただくのと、もう一つは、財務諸表についてご報告させていただく、以上の2点でございます。

その後、8月中旬、下旬にかけて、知事のほうに挙げまして、最終的に知事決定と、その後、さらには、8月、9月にかけて議会等への報告といったような流れ、さらには公表といったようなことで進めさせていただきたいと思っております。

それとは別に、ここに持ち回り分科会とか書いてございますけれども、いよいよ第4期中期目標である、あるいはそれを受けて作成する産技研の計画を、作業的には秋から進めてまいります。その件につきまして、持ち回り分科会、あるいは場合によっては、こちら会議の開催等でまた皆様方からご助言、ご指導いただくかと思っておりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

それから、ここには第5回という言い方をしておりますが、来年度2020年度の事業計画、年度計画につきまして、また、こちらの都庁で会議を開かせていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本当にお忙しい中で、本当に恐縮ではございますが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

私からは、以上でございます。

【青山分科会長】 ありがとうございます。

今の説明について、何かご質問、よろしいですか。

第4回と第5回は、11月ごろ、2月から3月ごろというのは、ここで開催するというのはほぼ決まっているわけなんですよ。

【横森技術調整担当課長】 そうですね。この第4回中期目標、中期計画は、フレキシブルではございますけども、この2月、あるいは3月に1回開催いたします年度計画については、毎年開催させていただいております。

【青山分科会長】 決まりましたら、できるだけ早目にいただければと思います。よろしく願いいたします。

【横森技術調整担当課長】 先生方、日程が非常に厳しい方ばかりですので、早目、早目でご連絡したいと思います。

【青山分科会長】 よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、東京都地方独立行政法人強化委員会令和元年度第2回試験研究分科会を閉会といたします。本日はどうもありがとうございました。

午後3時56分 閉会

——了——